

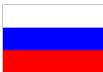
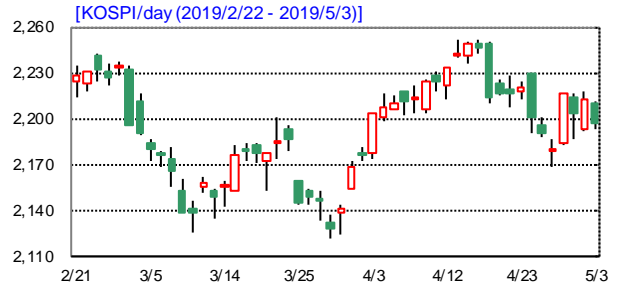


【韓国】 総合指数は週間で0.8%高と3週ぶり反発、今週は軟調な相場展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.8%高と3週ぶりに反発した。5月1日がメーデーのため休場で、4日間の取引だった。前週末の4月26日に終値でおよそ3週間半ぶりの安値を付けただけに、先週は買い戻しが入り、相場を支えた。ただ、韓国銀行（中央銀行）が25日に発表した2019年1-3月期の実質国内総生産（GDP）成長率は前四半期比0.3%減と、市場予想に反してマイナス成長だったことで、国内景気の先行き懸念は根強かった。指数は節目の2200ポイントを挟んで一進一退の方向感を欠いた展開となり、5月3日はこの水準を小幅に下回って終えた。今週は軟調な相場展開か。トランプ米大統領が5日、2000億米ドル分の中国製品に課す関税を10日から引き上げると表明しており、米中貿易交渉の先行き懸念が強まりそうだ。

▼指数チャート

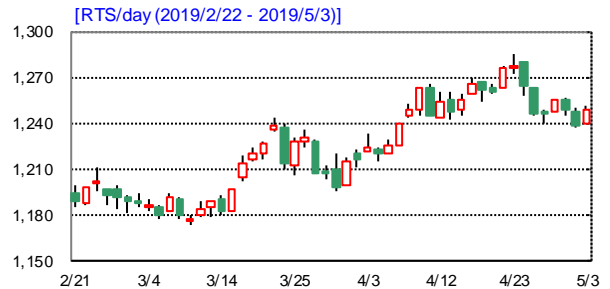


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.1%高と反発、今週は米中通商摩擦問題が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.1%高と反発。原油安やルーブル安が重しとなったが、金融のズベル・バンク・オブ・ロシアが大幅に上昇し、指数を支えた。5月1日が祝日で休場となり、市場参加者が減少する中、4月25日に75ドル台まで上昇したブレント原油が70ドル台まで反落したことに加え、週後半の米ドル高を受けて通貨ルーブルが一時2月中旬以来となる67ドルまで売られ、相場の重しとなった。RTS 株価指数は上下にもみ合ったものの、決算が好感された時価総額最大のズベル・バンクが週間で4.2%高と大幅に上昇したほか、好決算を発表した食品小売りのマグニトが5.7%高となり、指数を押し上げた。今週はトランプ米大統領の対中関税引き上げ表明を受けて再燃した米中通商摩擦問題が相場の重しとなりそうだ。

▼指数チャート



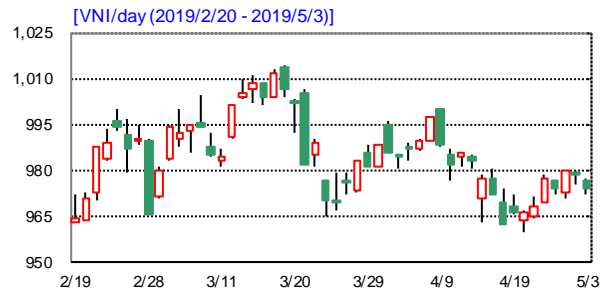
【ベトナム】 ベトナム指数は0.6%安と反落、今週は再燃した米中貿易問題が焦点

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.6%安と反落。4月29日-5月1日が休場となり、2-3日の2日間の取引となったが、パウエル米FRB議長が近い将来の利下げを否定する中、米雇用統計の発表を控えて様子見姿勢が強まった。指数は3連休明けの2日に0.1%安と小幅に下落し、3日は0.4%安と続落。米国時間1日に結果が公表されたFOMCでは政策金利が据え置かれたものの、パウエルFRB議長が会見で、市場で高まった利下げ観測を否定したことで米国株が売られ、東南アジア市場でも資金流出懸念が強まった。VN 指数採用銘柄は保険のパオベト・ホールディングスが13.4%安となったほか、銀行のベトコムバンク、不動産のビンホームズなどの時価総額上位銘柄も2%弱下落し、指数を押し下げた。今週は米中貿易問題が焦点か。

▼指数チャート

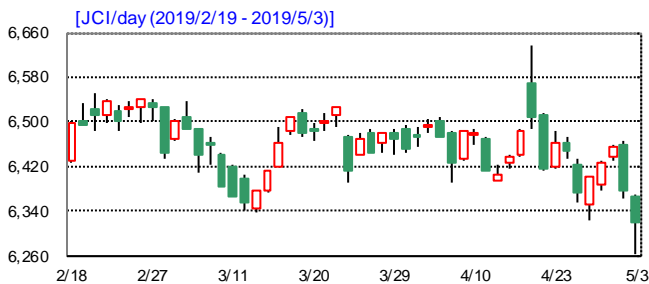


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%安、米国の利下げ慎重姿勢で下落

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で1.3%安と続落。4月月間では0.2%安。先週は後半の下落が痛手だった。29日は米国の1-3月期のGDPと中国の3月の工業部門企業利益が堅調だった効果で指数は上昇。30日まで3日続伸したが、祝日を挟んだ2日は前日に閉会した米FOMC後の会見で利下げに対するパウエルFRB議長の慎重姿勢を受けて売られ、指数は前日比1.3%下落。3日は場中に一時、6300ポイントを割り、終値でも続落した。6日に発表された1-3月期のGDP成長率は前年同期比5.1%増と市場予想と一致。今週はGDPに加え、7日発表の3月の小売売上高に対する市場の反応も焦点になる。

▼指数チャート

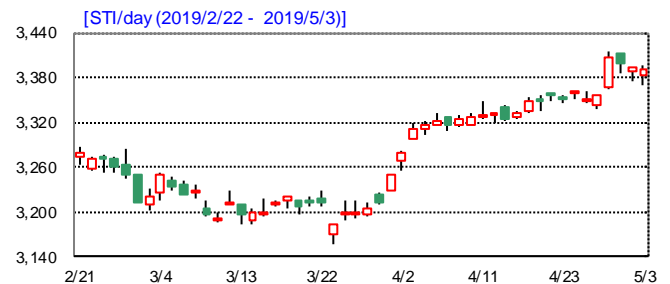


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.1%高、週初に終値で 3400 ポイントに到達

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で1.1%高と8週続伸。4月月間では5.8%高。先週は週初の上昇が指数を押し上げた。29日は1-3月期の純利益が過去最高額に達した銀行最大手のDBSグループが指数上昇をけん引し、終値で前営業日比1.5%高と10カ月半ぶりに3400ポイントに到達。ただ、その後は反動でじりじりと売られ、週末まで3営業日続落している。3日の取引終了後に発表された4月の製造業PMIは50.3と7カ月ぶりに上昇に転じた前月から再び下落した。今週は10日に3月の小売売上高が発表される予定。トランプ米大統領の対中強硬発言を受けた米中貿易摩擦問題の再燃が懸念材料。

▼指数チャート

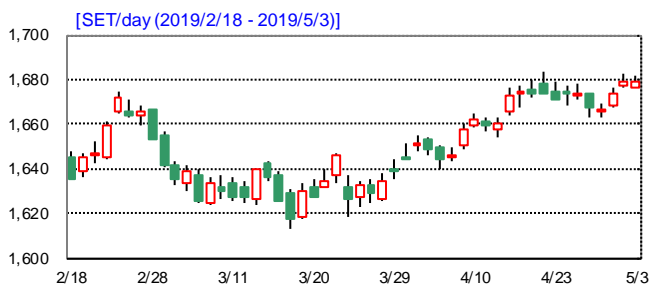


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%高、6 億 8300 万米ドル相当の景気対策を好感

SET 指数は4日間の取引で0.7%高と反発。4月月間では2.1%高。先週はおおむね堅調に推移した。週初めの29日は前週末からほぼ横ばいだったが、30日は閣議で6億8300万米ドル相当の景気刺激対策が承認された効果で上昇。同日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比2.5%減と2カ月連続で前年の水準を下回った。指数はメーデーを挟んだ2日に終値で約6カ月ぶりの高値を更新し、3日もほぼ変わらず取引を終えている。今週は6日が国王戴冠式で休場のため4日間の取引となる。8日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。外部要因では米中の貿易問題が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

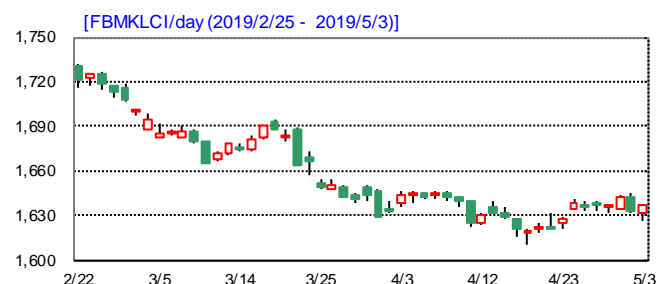


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、三井物産出資でアジアタ株が上昇

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.1%安と前週からほぼ横ばい。4月月間でも0.1%安。先週は小幅なレンジでの一進一退が続いた。株式の決済日を約定日の2営業日後とする「T+2」での取引初日となった29日は前週末からほぼ横ばい。30日は金融株が買われて上昇したが、2日は前日のNYダウが4日ぶりに反落した流れで売られた。一方、3日は通信大手アジアタ・グループが買われ反発。子会社のアジアタ・デジタルが三井物産から出資を受けると発表し、好感された。今週は7日に中央銀行が金融政策決定会合を開催するほか、10日には3月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。